

●一年生雑草、多年生雑草の強害草を  
選択的に除草します。

# グリーンアーザラム液剤

(アシュラム液剤)

有効成分：N'-メトキシカルボニルスルファニルアミドナトリウム…37.0%、水及び界面活性剤…63%

## 除草剤

農林水産省登録第 22788 号  
性状：淡褐色澄明水溶性液体  
毒性：普通物\*  
有効年限：5 年  
包装：1L×12、5L×4  
\*は毒劇物に該当しないものを指している通称

### 特長

- メヒシバ、タデなどの一年生雑草の発生前から生育初期まで、優れた除草効果を示します。
- セイタカアワダチソウ、チガヤ、スギナなどの強害草の生育期に使用して、それらを選択的に除草することができます。
- 哺乳類、鳥類、魚類、昆虫類、微生物などへの影響が少ない除草剤です。
- 分解が早く、土壌中での残留はほとんどありません。

### 適用雑草と使用方法

令和 5 年 4 月現在の登録内容

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	アシュラムを含む農薬の総使用回数
				薬量又は希釈倍数	希釈水量又は使用量			
日本芝	—	一年生雑草	秋～春期 (芝発芽前)	1000 ～1250 ml/10a	200～300 ℓ/10a	3回 以内	散布 (茎葉兼土 壌処理)	3回 以内
			芝生育期 (雑草生育 初期)	400 ～600 ml/10a				
		多年生 イネ科雑草	春夏期芝生 育期 (雑草生育 期)	800 ～1000 ml/10a				
樹木等	公園、 庭園、 堤とう、 駐車場、 道路、 運動場、 宅地、 のり面等	一年生雑草	雑草生育期	1000 ～2000 ml/10a	100～200 ℓ/10a	3回 以内	植栽地を除 く樹木等の 周辺地に雑 草茎葉散布	3回 以内
		多年生 広葉雑草		2000 ～3000 ml/10a				
		多年生 イネ科雑草		3000 ～5000 ml/10a				
		クズ		5000 ml/10a				

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	アシュラムを含む農薬の総使用回数
				薬量又は希釈倍数	希釈水量又は使用量			
すぎ (下刈り)	—	ススキ	6月	20倍	300ml/株 径30cmの株	3回以内	局所散布 (茎葉処理)	3回以内
		アレチノギク、カラムシ、シシウド等の大型雑草	雑草発生期		60l/10a		散布 (茎葉処理)	
		クズ	6～7月	10倍	50l/10a			

### ■ 効果・薬害等の注意 ■

- 雑草の発生程度により許容薬量内で使用量を増減する。
- 吸収・移行性の高い薬剤であるが、局所散布及び群生地散布の場合には必要に応じて展着剤を加用し、よく付着するように十分散布する。
- 局所散布または群生地散布は所定薬量内で雑草の茎葉部をねらって散布する。
- 砂土での土壌処理は発芽前雑草に対して残効性が劣るので使用はさける。
- カヤツリグサ科雑草に対して効果が劣るので、カヤツリグサ科雑草優占圃場での使用はさける。
- 遅効性で、効果の現れるまでかなりの時間を要し、散布が遅れると効果が劣るので、時期を失ないように散布する。
- 造林地の下刈りに使用する場合は、下記の項目に注意する。
  - すぎにかかるると薬害を生ずることがあるので、なるべくかからないように注意して散布する。
  - 農作物にかかるると、薬害を生ずるので、農耕地の近くで散布する場合はなるべく風の弱い日に散布するなど薬液を飛散させないように十分注意する。
- 日本芝に使用する場合は、下記の項目に注意する。
  - 芝生育期（雑草発生初期）に使用する場合、芽立ち期の散布は一時的に黄化を生じるおそれがあるのでさける。
  - 芝生育期（雑草発生初期）及び春夏期芝生育期（雑草生育期）に使用する場合、夏季高温時の散布は一時的に黄化を生じるおそれがあるので、あらかじめ薬害の確認をたうえで使用する。
  - メヒシバ、スズメノカタビラに効果を安定させるため、4～5葉期までに使用する。
  - 春夏期芝生育期（雑草生育期）に使用する場合、多年生イネ科雑草草丈20cm以内で使用する。
- 公園、庭園等に使用する場合、特に以下のことに注意する。

- 本剤は石を汚染することがあるので、霊園、墓地等では使用しない。
- 散布薬液の飛散あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分注意して散布する。
- 水源池等に飛散・流入しないように十分注意する。
- 激しい降雨の予想される場合は使用をさける。

### ■■■ 安全使用上の注意 ■■■

- 使用量に合わせて薬液を調製し、使いきる。散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器等は環境に影響を与えないよう適切に処理する。
- 散布時は農薬用マスク、手袋、長ズボン、長袖作業衣などを着用する。
- 眼に入らないように注意。眼に入った場合は、直ちに水洗する（弱い刺激性）。
- 作業後は手足、顔等を石けんでよく洗い、うがいをする。
- 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払う。
- 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管する。

保管…直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管する。

- 飲めません。
- 有効年月内に使用する。
- 体調の悪いとき、妊娠中、飲酒後等は取り扱い及び作業をしない。